

丹生ダム計画に関する 調査検討の説明状況

平成16年7月18日

琵琶湖河川事務所

丹生ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
1) 代替案に関してさらに詳細な検討を行う。	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・代替案として、瀬田川洗堰の操作の見直し、節水、農業用水との取水調整、堤防補強などの河川対応、警戒・避難などの流域対応など各種のものが考えられ、真摯な検討が必要である。 ・まず建設しないことを前提とした代替案について踏み込んだ検討をするべきである。 ・ダム建設により達成しうる保全効果と、起こりうるマイナスの影響評価について、代替案や費用対効果も含め、慎重かつ十分な検討を行う必要がある。 ・財政逼迫している。ダム建設は現在の経済状況からやるべきではない。 ・丹生ダム総事業費の明確化を。 	意見書 意見書 意見書 対話討論会 対話討論会
1)-1 琵琶湖への補給の検討				<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の自然環境の一部を改善するために丹生ダムによる周辺環境への悪影響が許されるかという環境振替への疑問についても説明する必要がある。 	意見書
1)-2 高時川の瀬切れ対策の検討				<ul style="list-style-type: none"> ・瀬切れを解消するには丹生ダムからかなり大量の放流が必要であり、前2者(琵琶湖環境改善容量、異常渇水対策容量)との整合がはかれない可能性がある。 ・瀬切れ現象は多くの場合人為的な影響が大きく寄与している。したがってその対応には、河川からの過剰な取水の見直しや調整等が必要であり、地方自治体や農林行政との調整が求められる。また、瀬切れに至らなくとも、河川の環境上必要な水量の確保に関して、水利用の実態や水収支も含めて検討する必要がある。 	意見書 意見書
1)-3 高時川・姉川の治水対策の検討					
* 河川周辺(堤防を含む基礎地盤)地質調査				<ul style="list-style-type: none"> ・堤防構造(地質)を調査して、治水効果があるのか調査してもらいたい。破堤するところとしないところを調査する必要がある。 	対話討論会
* 滋賀県の河川整備計画との整合				<ul style="list-style-type: none"> ・計画高水以下の洪水に対しては一定の有効性が認められるものの、計画高水を越える洪水に対しては有効性は低下するため、ダム計画の如何にかかわらず河道整備が必要である。 ・丹生ダムの建設を前提として高時川河川敷の樹木が放置されるなど河川管理面に問題が生じており、早急に調査検討の結果を示す必要がある。 ・滋賀県などと連携・協議し、速やかに堤防強化や堤外樹木の除去などの洪水対策を実施することが緊急の課題である。 ・ダム計画の基本条件の再チェックが必要。(計画高水流量など) ・ダム、堤防、浚渫など、それぞれの治水効果と地域への影響を明確にする必要がある。 ・河道内樹木の伐採が必要 ・ソフト面の対策として、ハザードマップ、避難対策などの整備も必要。 	意見書 意見書 意見書 対話討論会 対話討論会 対話討論会 対話討論会
2) 琵琶湖の水位低下抑制のための丹生ダムからの補給による効果と、その自然環境に及ぼす影響について、さらに詳細な調査検討を行う。	-	-	-		
2)-1 琵琶湖環境全般について課題の整理					
2)-2 琵琶湖の水陸移行帯における調査				別紙参照	
2)-3 丹生ダムによる補給の効果の検討	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖水位の抑制効果だけでなく、それがもたらす琵琶湖の自然環境への改善効果を明らかにする必要がある。 ・湖岸生態系保全という目的を達成するための他の多様な取り組みに関し情報が十分には示されず、ダム計画の客観的優位性を判断しようともその根拠が全くといってよいほど書かれていない。 ・ダム放流によってどれほどの効果があるのか(シミュレーション)。 	意見書 意見書 対話討論会
異常渇水時の効果の検討					
琵琶湖の水位低下を抑制することによる効果の検討					
* 補給可能量の検討					
高時川での効果の検討	-	-	-		
-1 河川流況(瀬切れ等)の調査				<ul style="list-style-type: none"> ・瀬切れについて、他の河川についての実情とその対策を調査してほしい。 	対話討論会
-2 農業水利状況の調査				<ul style="list-style-type: none"> ・農業用水とのバランス、農業用水取水量がこれでいいのかを再検討。国交省と農水省の合同で取り組むべき。 	対話討論会

丹生ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目		これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
	-3 魚類遡上・産卵等に対する効果					
	2)-4 丹生ダムからの補給による自然環境への影響	-	-	-	・琵琶湖にとって重要な低温の融雪水の補給状況の変化や、琵琶湖の生態系への不可逆的影響などについて、最新の科学的知見も取り入れ、慎重に検討する必要がある。 ・流入河川の貯留による琵琶湖への影響の検討	意見書 対話討論会
	姉川河川水の琵琶湖への流入状況調査(雪解け水について)					
	貯留水の補給が高時川・姉川及び琵琶湖に与える影響の検討					
*	・河川の漁業状況調査					
*	・河川の動植物調査					
*	・沿川の水利用状況調査				・農業用水路の非灌漑期を通して通年通水などによる潤い豊かな環境保全・創出、生物の生息・生育環境に対する考慮が望まれる。 ・水の利用は米づくりだけでなく、地域の水として集落の水利用、総合的な生活用水、防火用的な利用は見逃してはいけないのではないか。 ・逆水による余呉湖への影響の調査が必要。	意見書 対話討論会 対話討論会
*	・沿川地下水調査				・天井川であるので表流水から地下水に変わる量が多い。これの利用はないのか。 ・どういうメカニズムで湧水が発生しているのか。地下水の流れの変化も考慮する。	対話討論会 対話討論会
*	・人と自然のふれあいに関する予測検討					
*	・河川流況、水際植生の調査					
*	・ダム貯水池及び下流河川の水質予測検討(・水質調査含む)				・ダム湖の水質悪化や水温変化について、最新の科学的知見も取り入れ、慎重に検討する必要がある。	意見書
*	・補給による琵琶湖水質への影響検討					
	3) 貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。	-	-	-		
	3)-1 貯水池及び貯水池周辺の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)	-	-	-	・ダム周辺の多くの生物が生息するかけがえのない自然環境への影響について、最新の科学的知見も取り入れ、慎重に検討する必要がある。	意見書
	水質	-	-	-		
	-1 水温					
	-2 濁度					
	-3 富栄養化					
	生物の生息・生育環境	-	-	-		
	-1 重要種					
	-2 その他(上位性・典型性)					
*	その他	-	-	-		
*	・気象変動に関する調査				・今後、今までに経験したことのない異常気象による大規模な災害が起こることもあり得るのではないか。それについて専門的な意見を加味してダム建設の是非について検討していくべき。 ・異常気象への対応については、国民のコンセンサスがなければ実施には結びつかないのではないか。	対話討論会 対話討論会
*	・環境基盤調査(陸域、河川域)					
*	・大気環境に関する調査				・ダム工事の発破作業についての動物への実際的な影響評価をしてほしい。	対話討論会
*	・人と自然のふれあい、景観に関する予測検討				・ダム湖の裸地の景観をCGなどで示してほしい。	対話討論会
*	・森林の機能と保全に関する調査				・森林の多面的機能の恩恵について調査研究を要す。 ・山の生活を守る対策を検討すべき。 ・水源税についてどのように活用されているのか他地区の実状を調査してほしい。	対話討論会 対話討論会 対話討論会

丹生ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目		これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
*	・地域振興に関する検討				<ul style="list-style-type: none"> ・当該地域社会が今後自立的・持続的に発展していくための社会的・財政的支援について、これまでの法の枠を越える新たな可能性とその実現について積極的に検討してもらいたい。 ・地元の大きな犠牲の上に成り立っていることを理解する必要がある。すでに移転した人たちの思いも大切にしなければ。 ・地域整備とダムの見直しは切り離して考えるべき。 ・ダム中止の場合でも地域整備について考えるべき 	意見書 対話討論会 対話討論会 対話討論会
	3)-2 下流河川の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)	-	-	-		
	水質					
	生物の生息・生育環境					
	4) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・動的な安定河道の実現をめざした検討を早急に開始する必要がある。検討に際しては、さらに以下の事項についても調査・検討する必要がある。 ・ダムによる土砂供給の分断が琵琶湖や大阪湾の底質に与える影響 ・土砂を人為的に取り出して排出する場合の取り出し法および排出先の選定 ・偏った粒径の土砂のみ選択排出される可能性 	意見書
	4)-1 土砂移動の連続性が遮断されることによる影響の検討					
*	・河川の土砂移動に関する調査					
	4)-2 土砂移動の遮断を緩和(解消)する方策の検討					
*	4)-3 土砂災害の軽減効果に関する検討				<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時には大量の土砂が河川に流入して被害を増大させるため、治水の観点からも土砂の流出・移動についての検討が不可欠である。 	意見書
	5) 利水について、水需要の精査確認を行う。	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・水需要は水利権更新の際に精査確認するとしているが、本来は常時行うべきものであり、特に現在事業中の各ダムに関わる物は早急を実施すべきである。 ・利水安全度評価の低下により新たな水資源開発が必要としているが、地球規模の気候変動による降雨量の変動の増大が渇水の危険性を高める恐れがあるという科学的根拠を示す必要がある。 	意見書
	5)-1 各利水者の水需要の精査確認				<ul style="list-style-type: none"> ・水需要の予測値の見直し、確認が必要。水利権の見直しが必要。工水の利水転用により新規開発不要 	対話討論会
	5)-2 水系全体での包括的整理(琵琶湖水位、維持流量、利水安全度、渇水調整等)				<ul style="list-style-type: none"> ・高時川の河川環境保全のための放流などを考慮すると、渇水時に緊急補給用としてどれだけの水量が丹生ダムに残されているかに不確実性がある。 	意見書

* は040622資料4-1に加筆した項目

「」は調査検討の完了後の説明。
「」は調査検討の途上での説明。
「-」はさらに小分類がある調査検討項目。